

## 新たな運行契約に向けた課題の整理について

### 1 のりあい交通の課題整理の視点について

現在の運行契約は、平成30年4月から令和3年3月までの3年間となっている。

令和3年度からの次期契約に向けた協議を行うに当たり、アンケート結果やこれまでの運行実績を踏まえ、「のりあい交通」の課題を整理した。

#### ○課題整理の視点

- ① これまでの会議において、継続協議（検討する）とされた事項
- ② 利用状況を分析した結果を整理した事項
- ③ アンケート調査の結果、不満であると回答された方が多かった事項

### 2 これまでの会議において、継続協議（検討する）とされた事項

- (1) 土曜日の1台運行
- (2) 朝夕の通勤通学時間帯における運行時間の拡大
- (3) 予約時間の拡大
- (4) 車両サイズの変更（セダン車両⇒ワゴン車両）
- (5) 車両の増加
- (6) 乗合率を高める運行

### 3 利用状況の分析から整理した事項

- (1) 利用者登録
  - (ア) 運行開始当初は、毎月200人程度の登録があったが、令和元年度の月平均は約50人であった。
  - (イ) 令和元年11月時点では 5,062人の登録者数となっている。（市の人口の約10%）
- (2) 利用者の属性
  - (ア) 高齢者（70歳上）が約6割、女性が約7割の構成である。
  - (イ) 平成30年4月から令和元年11月の間に953人の新規登録があり、新規の利用者は423人であった。また、毎月、12人から33人の新規利用者がいた。
  - (ウ) 市の東部の上野田、下野田、太田新井、彦兵衛では、人口に対して登録者・利用者が多い。

### (3) 利用特性

- (ア) 日平均利用者数は、平成29年度が35.2人/日、平成30年度が38.0人/日、令和元年度11月末時点で38.9人/日と徐々に増加しているが、伸びは緩やかになってきている。
  - (イ) 1日に最大61人が利用する日もあるが、20人を下回った日もあり、日変動が大きい。
  - (ウ) 1便から3便までの便別利用者が5名を上回っており、1番多い2便では6.6人である。また、4便以降は3名から4名程度の利用があり、7便から9便については、平成29年度と比べ令和元年度の利用者が多く、伸びが見られる。
  - (エ) 1人乗車が約7割、2人以上の乗車は約3割である。
  - (オ) 白岡中央総合病院やパーク病院、白岡駅での乗降が多い。
  - (カ) 予約の成立状況は約80%前後で推移している。
- (4) 利用状況の分析から見えてきた事項
- (ア) 利用者登録は順調に伸びている。
  - (イ) のりあい交通は、地域に密着したいいわゆる「交通弱者」の方の個別の需要に柔軟に対応できるデマンド交通の構築を目指し実施している。利用者属性を分析したところ、平成30年度から令和2年度までの運行業務において、この目的は果たせていると思われる。
  - (ウ) 利用特性を分析したところ、日平均利用者数は順調に伸びている。しかし、運行年数の経過とともに、伸びは緩やかになってきている。また、便別に分析しても、順調に利用者数が伸びており、特に午前中の利用が多い。
  - (エ) 予約の成立状況については、平成29年度と比べ、令和元年度は大きくはないが全体的に落ち込みが見られる。

## 4 アンケート結果の分析から整理した事項

### (1) 利用者のアンケート結果から

- (ア) 約6割が外出機会は変わらないと回答した中、約2割が外出機会は増えたと回答しており、移動に困っている方の移動手段としての利用を確認した。
- (イ) 以前の移動手段は徒歩・自転車及びタクシーがそれぞれ約3割、家族の送迎が約1割半とタクシーからの転換が約3割見られる。また、予約できなかった時はタクシーを利用するが約6割であった。
- (ウ) 自宅や目的地近くで乗り降りすることが8割を超えており、満足度が高い。
- (エ) 「運行時間帯」については、平成28年度は、「大変満足」、「満足」が6割に満たなかったが、令和元年度については、6割を超えている。
- (オ) 運行日（日曜・祝日の運休）の不満が多い。
- (カ) 今後も利用したいが8割を超えている。

- (キ) 以上のことから利用者は、今後の利用意向が高い。また、タクシーからの転換が多いが、のりあい交通の利用者が増えるとタクシー利用も増えて行くと考えられる。
- (2) 登録者のアンケート結果から
- (ア) 日常の自転車、自家用車での移動が約2割である。
- (イ) 出発時間は9時台、10時台に集中し多く、帰宅時間はお昼から夜にかけて分散している。
- (ウ) 現在の交通手段に満足している方が5割を超えている、また、不満の方は約3割である。
- (エ) 登録時の将来利用するため約5割、利用するつもりだったが約4割である。
- (オ) 利用しない理由は、「利用したい時間と運行時間帯が合わない」、「予約が面倒」がともに約3割半であった。
- (カ) セダン車両が利用しづらいは1割未満（3%）と少数であった。
- (キ) 今後の利用意向は、利用したいが約2割、動けなくなったら利用するが5割半であった。
- (ク) 現在の交通手段に満足しており、将来利用のために「のりあい交通」の利用者登録をしている方が多い。
- (ケ) 以上のことから登録者は潜在需要として今後の利用が期待される。「運行日（日曜・祝日の運休）」は、「大変満足」、「満足」と「不満」、「大変不満」がほぼ半々であることを考慮すると、日曜・祝日に運行したとしても、利用者は限定的でと考えられる。コストを考慮した、慎重な検討が必要であると考えられる。
- (3) 未登録者のアンケート結果から
- (ア) 現在の交通手段に満足が約7割である。
- (イ) 利用者登録を知っているが約5割、「名前程度は知っている」の約3割を含むと約8割が利用者登録を認知している。
- (ウ) 他の交通手段が便利で困っていないが約6割であるが、平成29年度と比べると1割程度減っている。
- (エ) 今後、利用したいは1割未満（4%）で、動けなくなったら利用するが約6割である。
- (オ) 以上のことから未登録者は、徒歩や自転車、自家用車による移動が多く、現在の交通手段に満足している方が多い。のりあい交通の利用意向は少数で、当面、のりあい交通の利用は期待されない。
- 利用促進のためには、不満が多い「予約が面倒」、「利用したい時間と運行時間帯が合わない」についての改善が必要であるが、現在の交通手段に満足している傾向があるため、すぐに「のりあい交通」の利用に結びつくのは難しい。

## 5 のりあい交通の課題事項と今後の方向性について

2から4までの整理事項をもとに、令和3年度以降の「のりあい交通」の運行上の課題事項とその現状について整理をした。

- (1) 土曜日の1台運行（午後の便）【継続協議】
- (2) 朝夕の通勤通学時間帯における運行時間の拡大【継続協議】【アンケート】
- (3) 予約時間の拡大【継続協議】【アンケート】
- (4) 車両サイズの変更（セダン車両⇒ワゴン車両）【継続協議】
- (5) 車両の増加【継続協議】【利用状況】
- (6) 日曜日・祝日の運行【アンケート】
- (7) 予約を簡便にすること【アンケート】
- (8) 市外への運行【アンケート】
- (9) 乗合率を高める運行【研究事項】

今後の会議において、今回整理した(1)から(9)までの課題事項について、現状分析を加え、今後の方向性について協議した上で、令和3年度の次期契約に向けた準備を進めていくこととしたい。